

懐かしい成城大学の人々と JACET 活動

小 池 生 夫

1. 成城大学に関係する懐かしい JACET の人々

成城大学文芸学部英文学科ではこの度杉本豊久教授が退職されるとのこ
とを伺い、先生に心から「おめでとうございます」と申し上げます。杉本
先生は私にとって長いお付き合いをした懐かしい後輩です。ところで、成
城大学の英文学科の先生方の中で私が親しく交わった方々は、杉本先生ば
かりでなく、かつて五十嵐康男先生、中村敬先生、吉田正治先生、英文学
科以外では河野護先生、中村道子先生、安田一郎先生などがおられて、そ
の中では杉本先生が一番若い存在です。こうしてお名前をあげると、成城
の方々にはいろいろとご交誼をいただいた過ぎ去った日々が眼前に現われて
きます。では、この方々はどのような関係の方々でしょうか。また私とはどう
いう関係の方々でしょうか。

2. 大学英語教育学会（JACET）の創設

そうなんです。この先生方は皆さん大学英語教育学会（JACET）の会員
であった方でした。しかもある時期、JACET の中枢にあって、役員とし
て長らく貢献して下さった方々でした。

今日は成城学園のキャンパスや大学の研究室、教室棟、講堂など、さら

に成城学園の駅前から商店街を通り抜けて高級住宅の通りなどを思い出しながらこの方々や成城大学に関連する JACET の活動をまとめて語ってみましょう。

さて、大学英語教育学会は英文名で the Japan Association of College English Teachers と言い、短くは頭文字をとって JACET と言います。今日ではずいぶん多い学会が日本にはありますが、JACET が英語教育、それも大学の英語教育を扱う学会として 1962 年に創設された頃はまだまだ学会はほんの一握りでした。以来 53 年の歴史を持ちます。いまでこそ JACET は会員 2,800 名を持ち英語教育、応用言語学関係の学会では国際的な地位を確保している堂々たる学会ですが、創立当時の会員はわずか 120 名で、生まれたての小さく、珍しい学会でした。なにしろ当時は「大学で英語教育を専門にしている教員などはいない。なぜなら大学では英語教育は存在しないからだ」と啖呵を切る英語の先生もいたのですから。日本では大学で英語を教える先生方は 6, 7 割が英米文学の専攻、2 割ぐらいが英語学で、1, 2 割がその他の割合でした。敗戦から立ち直って、ようやく学会活動をする気運が出てきた頃の話です。

JACET の前身は財団法人語学教育研究所の大学部会でした。「これからは大学の英語教育とそのための研究はぜひとも必要になるので、学会を造って研鑽を積むべきである」と考えた草創期の先生方はさすがに見識をお持ちであったと思います。市河三喜先生、石橋幸太郎先生、朱牟田夏雄先生、小川芳男先生、星山三郎先生、芹沢栄先生、梶木隆一先生、山田和男先生、五十嵐新次郎先生、原沢正喜先生、福田陸太郎先生など当代きっての大御所でおられた方々でした。

JACET の初代会長は 18 世紀英文学の泰斗朱牟田先生で、東大の教養学部長を終わられたばかりでした。成城大学ではその頃英文学科の大山俊一先生が学長になっておられたかもしれません。私にとって、成城大学で

JACET 会員でおられた一人ひとりの思い出はいまでも鮮やかなところと忘却の彼方に去ったところがあります。

3. 成城大学所属の JACET 会員の皆様の活躍

JACET 成城グループの中心は五十嵐康男さんでした。五十嵐さんは私と同じ大学の一年後輩で、戦時中の疎開が元で中学、高校時代に住んだ新潟でそのまま県立新潟高校を卒業したのです。私も新潟県立村松高校の卒業生ですので、邯鄲合い照らす仲でした。明るく、ユーモアがあり、皮肉を言っても憎まれず、心が通じる情が厚い人でした。五十嵐さんが JACET 関係で成城に迎えた人の中には、中村さん、河野さん、杉本さんがおられます。皆さんは五十嵐さんのお人柄の故に長く成城で勤められたと思います。五十嵐さんの JACET 歴は、1969 年に入会です。私が JACET 第一回サマーセミナーに参加させてもらって会員になり、代表幹事になって活躍し出した時に五十嵐さんにぜひ手伝ってもらいたいと願いをしました。それに応じてくれて、一緒に働いたのが長い心の友のはじまりです。五十嵐さんは入会するとすぐ研究企画委員になり、82 年までつとめられました。さらに 79 年から 82 年まで評議員をなさり、理事として同年から 2002 年までなさり、退職後は顧問に 2002 年から 12 年 3 月 18 日まで就任して大活躍をしておられました。しかし晩年にご病気が続き、出席が不規則になり、成城大学を退職してまもなくあの世に行かれたのは、残念なことでありました。お元気ならまだまだ貢献なさる方でした。しかし 43 年間にわたり JACET 活動の中核にあってご活躍いただいた功績はじつに大きなものがあります。

吉田正治さんは、学科長をなさったり、学部長もなさったと思いますが、JACET 関係では、1967 年に入会され、その後 1971 年に成城大助教授に就

任され、JACET 会員として大会開催時にはご活躍になりました。やがて 2008 年に退会なされたと思います。私とは大学の先輩後輩の関係にあります。

杉本さんは大学院を出て、実践女子大に就職しました。その頃 JACET に入り、研究企画委員になったのが 1983 年でしたが、1986 年には成城大学に転任されました。やがて JACET では 2004 年に理事になられ、学会の運営にあたられましたが、2006 年までお勤めの後、学会が社団法人に変わったのを契機に社員に、2006 年から 2013 年まで本部運営委員となり、同時に 2008 年から 2013 年まで関東支部研究企画委員になって活躍されました。実に 30 年にわたり、JACET 活動に貢献してくださったのです。特に五十嵐さんを助けて JACET 成城大会の運営に貢献してくださいました。私と長い JACET 活動を共にしてくださいました。

中村敬さんは名古屋から横浜の鶴見女子大に転任されたときに偶然私がお会いする機会があり、JACET にお誘いした方です。1972 年から研究企画委員を 1980 年まで勤めてくださいましたが、その間 1976 年からは成城大学に転任なさいました。中村さんは特に『JACET 通信』というニューズレターの編集長をやってください、活発な紙面ができておりました。残念ながら、途中で JACET を辞め、ご縁がなくなりましたが。明確な考えと志をお持ちでした。

英文学科ではないのですが、法学部所属の英語及び視聴覚教室担当に河野護さんがおられて、やはり研究企画委員に 1973 年になられました。その当時は筑波大学に勤務でした。成城大学に転任したのは 1979 年で 1983 年まで委員をなさいました。河野さんは私とも同窓の関係で友情を今日まで続けていただいています。

このほかに中村道子先生、安田一郎先生もおられました。中村先生は大学婦人協会のリーダーで、国連関係でも婦人運動に積極的にかかわったと

記憶しております。JACETでは長らく評議員を引き受けてくださいましたが、気さくながら重鎮でした。安田先生は法学部の英語担当教授でしたが、中学英語教育の専門家でNHKで長年にわたり英語教育番組の講師をしておられ、人気のある先生でした。JACETでもやはり評議員をしてくださいました。

個人的関係では杉山先生や池上恵子先生も存じあげています。杉山先生は小川先生のお弟子さんの関係で、池上さんは中世英文学のベテラン研究者で意欲的に研究しておられました。日本のほかにヨーロッパ各地でお会いしたこともあります。また成城学園小学校には長く野上三枝子先生がおられ、その後任の久埜百合先生も英語を教えておられました。野上先生は市河三喜先生のお嬢さまで、日本における小学校英語の大先覚者です。私が文部省で小学校に英語を教えるように努力したことをお話した時には、大変なお喜びと感謝のことばをいただきました。その後継者が久埜さんで、今日の小学校の英語教育の第一人者ですが、私は学生時代からの友人です。お二人とも尊敬すべき日本の小学校英語教育界のリーダーです。

成城大学に所属したのではなかったのですが、JACETの第2代会長で東京外国語大学学長の小川芳男先生は成城大学の正門から歩いて一、二分の広い道路に面した邸宅に住んでおられました。いずれの方々も懐しい思い出です。

4. 成城大学での JACET 年次大会開催

成城大学をお借りして JACET の大会を 2 回開催したことを覚えています。一回目は第 16 回年次大会を 1977 年 10 月 30 日に開催しています。この時は、開会式で司会を中村道子先生、挨拶を小川芳男会長、大山俊一学長がしておられます。午前中に 4 室に分かれての研究発表 7 件、ミニシン

ポジウムでは「共通一次テストについて」と「文学と英語教育」が論じられました。午後は講演があり司会が中村敬先生、総会の司会は吉田正治先生でした。経過報告と活動報告は学会執行部を代表して五十嵐康男代表幹事がなさっておられ、成城大学英文学科の会員が総出演でした。シンポジウムは「大学教養課程の英語教育はどうするか」でした。英文科の学生がたくさん手伝ってくれました。

この大会は一日だけでしたが、2回目は18年後に再び成城大学で1995年9月15日から17日までの3日間にわたって開催されました。第34回年次大会で、会長は私になっていました。大会委員長は五十嵐さん、大会実行委員長は杉本さんでした。なにしろ、4年後の1999年には国際応用言語学会世界大会をJACETが中心になって開催することが決まっています、その準備で高揚感が高まっていた頃でした。この時の大会テーマは「言語習得と英語教育」で、基調講演にはイギリスのUniversity of EssexのVivian Cook教授、San Francisco State UniversityのThomas Scovel教授をお招きし、日本側の基調講演者は私でした。このほかに小講演8件、「私の授業」の授業実演1件、研究発表52件、実践報告2件、事例研究6件、ワークショップも4件ありました、シンポジウム3件、全体シンポジウム1件、計104件と多数に及び、参加者総数は1,000をはじめて越し、各研究発表室が満員で、熱気に溢れた大会でした。ただ残念なことに大会3日目に超大型台風に見舞われ、私が行った最初の講演には数人しか集まらず、講演が終了する頃ようやく席が少々埋まる程度の参加者でありました。

この大会以降成城大学ではJACETの大会は開催されず、今日に及んでおります。当時最も若かった杉本さんが本年度をもって定年退職なされ、その前の方々はずすでに退職されており、あの世に旅立たれた五十嵐さんのような方々もおられます。あれほど盛んであったJACET成城グループは後継者もいなくなり、杉本先生で幕を閉じるのでありましようか。またふ

たたび歴史と伝統のある成城大学に JACET 活動の花が咲いてもらいたいものと願っております。JACET のモットーは「学生のために研究も教育実践もある」です。最後に JACET 活動を支えて下さり、何くれとなくお世話いただいた成城大学の先生方、事務局の皆様がこの場をお借りして改めて厚く御礼を申し上げます。

参考文献

- 大学英語教育学会「JACET 通信」No.30. 1978 年 2 月.
大学英語教育学会「JACET 通信」No.100. 1995 年 11 月.